

## 集団討論の基礎事項

作成者 永田英晃

**集団討論の趣旨** 論文や面接で抜け落ちる重要能力を測定

### 論文試験との評価基準の違い

論文試験→論理的な切り口 集団討論→個別具体的現実的な切り口

※ 論文は時に机上の空論となる。そこから抜け落ちた現実的な視点が集団討論では重要。

### 面接試験との評価基準の違い

面接試験→上司(面接官)との縦へのコミュニケーション能力

集団討論→同僚との横へのコミュニケーション能力

### 大まかな方向性

- ・当然ながら、課題・資料の正確な理解、現状の把握がスタート地点。その上で、「何が問題なのか」「どこを改善すれば解決・結論に結び付くのか」(方向性)を定める。
- ・「抜け落ちている側面はないか」「他に適切な選択肢はないか(各々のメリット・デメリットを比較考慮)」を常に意識する(思い込みだけで突っ走らない!)

### <事前に課題が発表されている場合>

- ・すぐに思い付く程度の対策は既にもう手が打たれているが、課題にはあえてその点については隠してあることも多い(「どれだけ熱心に情報を集めてきたか」事前準備の有無を見ている)。
- ・「もうすでに改善策は出ている」地点からスタートするか、何も知らない地点からスタートするか、どちらがより深い議論になるかは明らか。

### 評価のポイント

#### 現実的な切り口(内容)

・「本当にその問題を解決しようとする」踏み込んだ姿勢、「当事者の立場、現場に立脚した」具体的な視点(課題の問題を引き起こしているのは、ごく一部の人間であることが多い。原因要素である少数派を排除して多数派視点のみで結論を出すと、建前だけの机上の空論となりやすいので注意)

#### チームプレー(姿勢) 「巻き込む力」と「巻き込まれる力」

- ・チーム全体で一つの目標に向かって進む。全員が味方であり、全員で(妥協ではなく)同じ方向を向く建設的な姿勢が大切。
- ・自分の意見を押し通したり、論破するのは×(寧ろ、相手の意見を補強して、チーム全体で結論を出していく)。
- ・誰が何を発言したかメモをしておく。
- ・チームの中であまり発言できていない人に発言を促し、脱落者を作らないようにする姿勢は◎。しかし、発言を求めて相手が窮してしまった場合、強圧的な印象を試験官に与えてしまう可能性もある。こちらで選択肢をいくつか提示して選んでもらい、そこから話を膨らませるような振り方が無難。

### 討論中に気を付けること

- ・課題の要求(マクロの方向性)
- ・今の話題(ミクロの方向性)

の二点を意識し、話題が逸れた時は軌道修正。「課題と関係ない話をしてしまう」「人の発言を聞いていない」は×。

### ワンポイントアドバイス

人間はAタイプ(常に主体的・積極的である)Bタイプ(普段は主体的・積極的でないが、上手く促されれば主体的・積極的になれる)Cタイプ(上手く促されても主体的・積極的にならない)に分類される。「Bタイプの人を活躍させる」と言うスタンスで動き、間接的に自分を売り込む作戦も有効(「自分が活躍」よりも「他人を活躍させる力」の方がポイントが高い)。